

## 為替週間展望 = ドル円は150円台で方向性を探る動きか

[10月13日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		10月6日～10月10日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	149.11	153.27(10)	149.05(6)	152.74	+5.27
ユーロ・ドル	1.1724	1.1731(6)	1.1542(9)	1.1574	-0.0168
=====					
国内株・金利/米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	48,088.80	+2319.30	日本10年債利回り	1.684	+0.022
ダウ平均株価	46,358.42	-399.86	米10年債利回り	4.138	+0.019
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 13日 中国9月貿易収支  
独8月経常収支  
※国際通貨基金 (IMF) と世界銀行の年次総会 (18日まで)
- 14日 独9月消費者物価指数確報値  
英9月雇用統計  
スイス9月生産者輸入価格  
独10月ZEW景況感指数
- 15日 中国9月消費者物価指数、中国9月生産者物価指数  
日本8月鉱工業生産指数確報値  
ユーロ圏8月鉱工業生産指数  
カナダ8月製造業出荷、カナダ8月卸売売上高  
米9月消費者物価指数、米10月NY連銀製造業景気指数  
※20カ国・地域 (G20) 財務相・中央銀行総裁会議 (16日まで)
- 16日 日本8月機械受注  
豪9月雇用統計  
英8月鉱工業生産指数、英8月製造業生産指数  
英8月貿易収支  
ユーロ圏8月貿易収支  
米9月小売売上高、米9月生産者物価指数  
米10月フィラデルフィア連銀景況感指数  
米新規失業保険申請件数
- 17日 ユーロ圏9月消費者物価指数確報値  
米9月住宅着工・許可件数、米9月輸入価格指数  
米9月鉱工業生産・設備稼働率  
米8月対米証券投資

※米政府機関閉鎖の影響で米経済指標の一部は発表が延期となる可能性がある。

【前回のレビュー】8月以降は145円台半ばから146円台前半まで下げると、下げ渋りを見せやすくなっている。一方で、150円接近は上値を抑えられやすくなっている。こうした中、米国の政府機関再開への動きや日銀の利上げへの思惑などが交錯する中、レンジ内で方向性を探る動きになるとした。

【高市新総裁の誕生で日経平均もドル円も大幅上昇】

4日の自民党総裁選では、高市前経済安全保障相が勝利して、女性初の自民党総裁に就任することとなった。高市氏は積極財政と金融緩和を支持する姿勢を示している。また、日銀の利上げ姿勢には慎重な姿勢を示している。高市氏の積極財政や金融緩和姿勢への期待感から、株式市場は大幅に上昇するとともにドル円は大幅な円安に振れてい

る。

9日には日経平均が前週末（3日）と比べて2800円超の上昇となっており、最高値を更新している。ドル円は3日の147.40近辺から9日には153.20台まで、5円以上もの急騰を見せている。短期間でのあまりに大幅な上昇で、ドル円には過熱感も台頭している。また、日本の財政悪化を警戒した悪い円安との認識も広がりつつある。

過度な円安の進行が輸入物価の上昇につながり、それがインフレ率の高止まりにつながるなどの警戒感も出ている。高市氏の政策スタンスに反応して株高や円安が進むいわゆる高市トレードがどの程度進むのが市場の注目を集めている。低金利の円を売って、金利の高いドルや豪ドルを買う円キャリートレードが再び活発になっているとの見方も出ている。

10日時点で米政府機関の一部閉鎖は継続しており、政府発表の経済指標の発表は延期されている。こうした状況が継続中、10月28-29日の米連邦公開市場委員会（FOMC）で金融政策の判断材料が不足するとの見方も出ている。

【米政府機関閉鎖の期間や高市トレードの継続に注目】

自民党総裁選前までは10月の日銀金融政策決定会合での利上げ確率は65%前後まで上昇していたものの、高市氏の勝利後は20%台まで低下している。

高市新総裁の就任で、日銀が利上げに動かない、あるいは利上げに動きづらくなったとの見方も円売りにつながっている。新政権は日銀の独立性は尊重するとみられるものの、利上げを抑制するような方向に進むとの見方も出ている。

日本株も高市トレードが継続して、一段と上昇するかが注目されている。日経平均は9日に4万8500円台に乗せて最高値を更新しており、ドル円も153円台まで上値を伸ばしている。日銀が動かない、動きづらい状況が続くようなら円安は一段と進行する可能性がある。

米政府機関の一部閉鎖が解除に向けて進展するのも注目される。9月の米雇用統計をはじめとして、多くの統計発表が延期されている。閉鎖解除となった場合は、一時的にドル高に傾きそうだが、米経済指標の内容が期待したほどでなかった場合はドル売りに振れ可能性も出てくる。

注目される経済指標としては、15日の米9月消費者物価指数、16日の米9月小売売上高、米9月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数などがある。ただ、米政府機関閉鎖の影響で発表が延期となる可能性がある。

ドル円は上昇が続いてきたものの、高値警戒感の台頭と一段の円売り圧力が交錯する中、155円接近では上値を抑えられ、150円付近では買いに支えられやすい展開が見込まれる。こうした中、ドル円は150円台で方向性を探る動きになるとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、150.00～156.00円。

上記以外の日米の経済指標やイベントとしては、15日に日本8月鉱工業生産指数確報値、米10月NY連銀製造業景気指数、16日に日本8月機械受注、米10月フィラデルフィア連銀景況指数、米新規失業保険申請件数、17日に米9月住宅着工・許可件数、米9月輸入価格指数、米9月鉱工業生産・設備稼働率、米8月対米証券投資などがある。

【ユーロドルは上値の重い展開か】

ユーロドルは対円でドルの上昇やフランスでの政局不透明感などを背景に下落基調で推移している。テクニカル面では、ユーロドルは1.17ドルを割り込んだ後は5日移動平均線に上値を抑えられており、軟調な流れが継続している。軟調な地合いが継続して、上値の重い展開が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1400～1.1750ドル。

ポンドドルもユーロドルと同様に下落基調で推移している。対円でドルの堅調な動

きが重石となっている。テクニカル面では、21日移動平均線接近では上値を抑えられ、下向きで推移する5日移動平均線が抵抗となり下げが続いている。こうした中、引き続き下値を探る展開が見込まれる。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.3100～1.3450ドル。

上記以外の今後の日米以外の経済指標は、13日に中国9月貿易収支、独8月経常収支、14日に独9月消費者物価指数確報値、英9月雇用統計、スイス9月生産者輸入価格、独10月ZEW景況感指数、15日に中国9月消費者物価指数、中国9月生産者物価指数、16日に豪9月雇用統計、英8月鉱工業生産指数、英8月貿易収支、ユーロ圏8月貿易収支、17日ユーロ圏9月消費者物価指数確報値などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。